

かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)

KECA ニュース No. 48

＝2013年1月16日＝

【巻頭言】

節目の年2013年の新春を迎えて

理事長 木村信幸

明けましておめでとうございます。昨年末、新政権が発足しました。是非、公約通り日本の経済を取り戻して欲しいものです。2013年が、「失われた20年」からの転換点となる節目の年になることを願わずにはられません。経済界、ことに中小事業者が元気を取り戻さない限り、私たちのEA21普及活動も湿りがちとなります。というよりもむしろ、環境経営を促進して中小事業者を元気づけられるかどうかは、その一端を担う私たちの活動如何にかかっていると言うべきかもしれません。

2012年度の事業計画で掲げた5つの活動方針に基づき、支部、委員会を初め各分野でそれぞれの事業活動等を推進していただいております。一部に計画通り進んでいないもの、計画変更を余儀なくされたもの等ありますが、各活動とも概ね着実に進捗しており、年度末には計画完遂を期待したいと思います。

昨年10月、KECAでは初めてのパネルディスカッションを開催しました。テーマは「15周年を迎えて将来像を探る」です。総合研修会と位置づけた内輪の行事であり参加者もそう多くはありませんでしたが、いろいろな意味で大変意義深い催しであったと思います。パネリストは主に運営委員会メンバーが務めました。発言内容は現状認識からの問題点を浮き彫りにし、どうあるべきかを熟考した将来像への提言でした。一般的なパネルディスカッションとはいささか趣の異なる面もありましたが、フロアとの真剣な意見交換もあり、今後の方向付けができたことは大きな成果でした。コーディネーター初め運営にあたられた全ての方々に、この場を借りてお礼申し上げます。概要は3月末発行予定の「15周年記念誌」をご覧ください。

東日本大震災とそれに伴う福島第一原発事故の影に隠れて、今一つ話題性に乏しかった地球環境問題、とりわけ温暖化対策としてのポスト京都体制は大変重要であり、注視すべき世界共通の課題ではないでしょうか。昨年12月のCOP18は世界の温暖化対策が節目を迎えたことを示す結果となりました。すなわち、中国やアメリカ等温暖化ガスの多量排出国を含め全ての国や地域による協力体制を2015年までに作り、2020年からの発効を目指すことになりました。

他方、京都議定書は今年から第二約束期間が始まって2020年まで続きますが、日本やロシアがこれ以上の削減義務を拒否し、削減を進めるのはEUやオーストラリアなど排出量で世界の15%の国々に留まります。自主目標を掲げて取り組むことになった日本は、排出枠の国際売買が制約されて海外からの調達分を国内での削減分に上乗せすることが難しくなったため、省エネ等による削減と森林吸収分を主体に削減目標を達成しなければならなくなりました。

今後省エネ技術の開発等が一層求められることになると考えられます。原発稼働の停止が進めば一層の省エネを推進しなければならなくなることは必定です。温暖化対策を中心とするこれからの環境問題は正に“Think globally, Act locally”を実践するのみ、これからが本格的な環境カウンセラーの出番ではないでしょうか。将来を担う孫やひ孫世代のためにも、互いに力を結集して頑張りましょう。

委員会の報告

会員の有志による4委員会・1研究会が運営されており、支部活動を縦糸とすると委員会は横糸の役割となり全県的な活動が行われています。環境教育委員会がプログラム提案し採用された神奈川県委託事業の「新エネルギー・省エネルギー学校派遣事業」を横浜市、厚木市の小学校で出前授業を、それぞれ横浜支部、県央支部会員の協力により実施することができました。委員会・支部の連携・協力により活動分野・参加会員の拡大・活発化が進むことを期待しています。(委員会担当副理事長 小林嘉博)

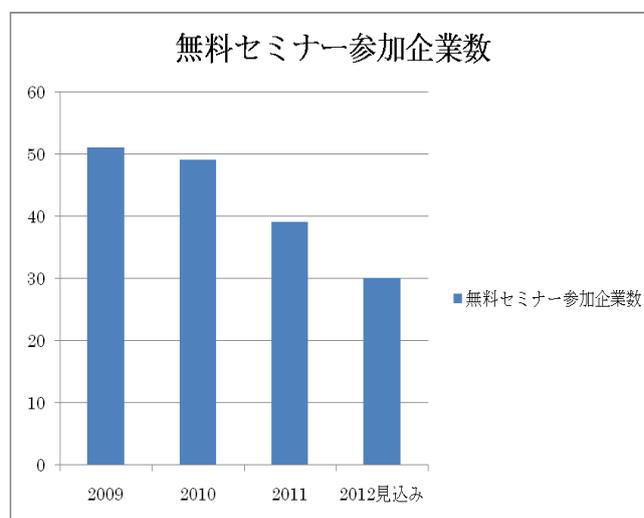
2013年の環境管理委員会

環境管理委員長 照沼 俊夫

新年あけましておめでとうございます。日本の新しい政治体制が決まり、デフレからの脱却と景気浮揚が期待されるようですが、中小企業の事業環境はリーマンショックの影からも、円高による大企業の日本脱出の影響からも抜け出せず、さらに東日本大震災と中国ショックと言う追い打ちを受け、大変苦しい状況にあります。事業者を訪問して分かることは、皆さん必死に頑張っていますが、何とか凌いでいると言うのが実情でしょう。それは私たちが開催している無料セミナーへの参加企業の減少に如実に表れていますし、自治体イニシアティブプログラムやグリーン化プログラムの実施率の減少にも表れています。

そのような中で私たちのボランティア活動を維持する上でも、EA21の普及事業を着実に推進することが重要です。そのためには、中小事業者皆さんの環境問題への取組の思いを丁寧に聞き取り、それを実現するためにはどうしたら良いかを経営者と共に考え、丁寧に提案し、丁寧に説明することが求められます。

私たちの活動の目的は、地球温暖化ガスの削減、循環型社会の確立にあるのですが、事業者がEA21に取組んで良かったと実感できる活動が期待されます。



定例行事の継続と内容の充実を

環境教育委員会 委員長 高橋 弘二

環境教育委員会では、着実に活動を続けてきたセミナーなどが定例事業となってきたので、これらの事業の継続と内容の充実、担当会員の増加および新旧交代を図っていきたいと考えています。

(1) 環境教育インストラクター養成セミナー

1月26(土)、27日(日)、横浜シルクセンターで開催しますが、3回目となります。参加者は思ったより少なく、参加者を増やすべく努力しています。これからもECUの指導・協力により内容の充実を図り、定例事業として毎年、年初めに開催していきたいと考えています。

(2) フォローアップセミナー

同上セミナーの受講者を対象に、半年、1年後、環境教育インストラクターとして活動されているかどうか、活動されている人に対してはスキルアップと分野拡大、未活動の方には活動のきっかけづくり、アドバ

イス、そしてみなさんがお持ちの情報交換・交流の場を提供するものです。

昨年12月1日（土）横浜シルクセンターで初めてのフォローアップ研修会を開催しました。時期が悪かったのか、昨年、一昨年の受講者に開催案内を出しましたが、残念ながら参加者は12名（スタッフを含む）でした。

内容は、岡本、高橋講師の簡単な体験学習の後、全員が気楽に話し合った意見交換・交流会は大変好評でした。

来年度は時期を早めて実施したいと考えています。



写真 情報交換・交流会の様子

（3）市民環境活動報告会

県環境学習リーダー会を中心に KECA 他が一緒になって実行委員会を推進し、毎年3月に県民センターで開催しています（KECA 実行委員：岡本、上野、吉野、川村＝環境教育委員が担当）。

毎回、KECA から1名が口頭発表を行っており、基本的には各支部持ち回りですが、会員数の多い横浜支部にも配慮し、今年は「びんリユース」について（横浜支部：斎藤会員）発表の予定です。

昨年から4テーマごとの「テーブルセッション」を始めました。多くの参加者の意見交換ができて好評でしたので、今年も実施の予定です。司会進行にあたるコーディネーターは大変ですが、たくさんの会員の参加と活発な発言（節度ある）を期待します。

（4）環境カウンセラー養成講座

事業者部門は会社で環境分野の業務に一定期間従事していれば、比較的容易に環境カウンセラーに申請できます。一方、市民部門は環境保全・教育活動をしている人は多いのですが、申請が難しい（実績証明が必要）ことと、関心がないためか、合格者が少ないのが実情です（KECA 会員120名中、市民部門は21名）。横須賀三浦支部では、三浦半島で環境活動している団体のリーダー格の人達に参加を呼びかけ、7月（申請締切は8月中旬）に「環境カウンセラー養成講座＝申請サポート」を行っています。

（5）エコ検定受験対策講座

年2回、東京商工会議所が主催して行う「環境社会検定試験（エコ検定）」受講希望者を対象に、公式テキストと講師の経験に基づく指導を行っています（これまでに2回実施）。合格者はエコピープと呼ばれ、これまでに全国で12万人超となっています。[講師：近藤、平野、守谷]

公式テキスト（市販）の内容は充実しており、環境全般の知識習得、自身の環境学習には最適です。

エネルギー委員会

委員長 加藤 幸男

新年あけましておめでとうございます。

エネルギー委員会は、2005年6月14日創設以来8年目を迎えます。その間の活動は、KECA 15年記念誌に記載に付き割愛し、ここでは新年に当たりエネルギー委員会の近未来像を記述致します。

通常総会で承認されたエネルギー委員会の2011年度活動方針は、「特に新規事業を行うことを意識しないで、各個人の能力を向上することで各個人が省エネ等活動組織と契約できるようにする。」であり、今年度(2012年度)も上記の基本方針を踏襲することになっています。

現在の委員会メンバーは、総数11名で内、海外勤務1名、残り10名中の7名は、現役(常勤)3名、顧問契約の他、他のNPO等の活動に従事しています。従って、当委員会の活動は至極困難な状態にありますが、日本の現状を鑑みるに「省エネ・創エネ」が極めて重要な取組みであることは、疑う余地はありません。

そこで近未来の目標を設定し、今後の活動の指針といたします。もちろん他の意見も出てくるはずなので、エネルギー委員会でも検討していきたいと思えます。

ここでは、国がやるべきことと、KECA のエネルギー委員会でやるべきこと(やれるレベル)を区別すれば、今後の活動の指針(2 本柱)は、①省エネルギーと②創エネルギー となります。

① は省エネ診断のプロジェクトで ②は創エネ(バイオマス関連)プロジェクト

①、②共、他の NPO 及び企業とで検討中で、5 月末、公表の予定です。そのときは、みなさんにご協力をお願いする予定です。いまは、みなさんの実力が十分発揮できる環境づくりの時と考えています。

(参考)

*内閣府事業 :カーボンマネージャー制度 現状では、進展が見られない。

*新クレジット制度 :2013 年 4 月からスタートの予定(国内クレジット制度 と J-VER 制度は統合)

化学物質委員会 =2012 年活動報告=

委員長 近藤 勝養 / 副委員長 中山育美

化学物質委員会は化学物質の専門家を中心に、数人の委員で活動しています。化学物質は現在の社会に必須で有用なものが大部分ですが、取扱いによっては大きなリスクを伴います。リスク情報は、行政や各種組織より豊富に提供されていますが、理解している人は少ないのが現状です。

本委員会は奇数月に 1 回会合を持ち、市民や企業にどのような情報を提供したらリスクを理解していただけるか検討しています。これまでの検討の成果は KECA ホームページ (HP) で公開しております。

[例] 神奈川県平成 22 年度 PRTR データ集計 化学物質関連情報リンク集 等

今後もエコアクション 21 審査人や関連組織の方々に役立つ情報の HP やセミナーによる提供に努めます。セミナーで使用したわかりやすい情報も公開する予定です。

HP をご覧いただき、必要な情報のご希望をお寄せください。検討いたします。

支部活動の報告

地域に密着した活動が各支部 (県下 7 支部) で行われています。活動の中には、支部会員に限らず KECA 会員、一般市民を対象にした活動も行われていますので、積極的な参加を期待しています。そのためには日頃の情報発信、情報入手など、積極的な心がけが望まれます。(支部担当副理事長 高橋弘二)

横浜支部

支部長 原 洋夫

1. 支部会員現況

今期の始めでは総勢 51 人であったが、これまでに退会 4 人、新人入会 3 人である。

2. 支部会議の開催

原則毎月第 4 木曜日午後 18 時 30 分から横浜市市民活動支援センター (桜木町) で開催している (出席者 15~20 人)。内容は KECA 行事や理事会議題の報告、6 つの部会の進捗報告とフォローが主体。KECA 行事 (神奈川県温暖化防止活動推進センター節電チャレンジシート、バリアフリー展、総合研修会、市民活動報告会など) への横浜支部会員の参加が圧倒的に多いのは月一度の連絡会開催によるものと思う。

なお会議室は毎回横浜市市民活動支援センター会議室を使用しているが、この予約の競争率が高く、松永会員に毎月ご尽力いただいて何とか確保している。

3. 2012年度横浜支部事業活動進捗状況

(1) 横浜市環境月間参加（大野、河野リーダー）

11月3日、横浜市環境行動フェスタ（みなとみらいクイーンズプラザ）に参加。＜16ページ参照＞

(2) EA21 普及（村井リーダー）

顧客開拓のため、KECAのHPに事務所相談会開催を掲載しPR実施

また横浜市商工会議所における会員へのPRを実施中

(3) 市民環境活動（平野リーダー）

5月、横浜市環境創造局に環境教育講座の講師に応募した。8月にH社と共催で子供夏休み環境セミナーを計画したが応募者少なく中止。2月に実施予定の市立F小学校の新エネ省エネ出前授業に協力

(4) 自己啓発企画（石黒、樋口リーダー）

9月27日、樋口講師で「生物多様性と遺伝子機構の考察」開催

11月22日、石黒リーダーの計画で川崎市太陽光発電基地（メガファーム）見学

(5) びんリユース（齋藤リーダー）

学校給食牛乳瓶で市内リユース化を目指して各方面での調査活動を実施中

(6) 自然観察会（大竹リーダー）

11月17日、舞岡公園ふるさと村の観察会が雨で流れたので、2月16日（土）に延期し実施予定

横 須 賀 三 浦 支 部

支部長 高橋 弘二

横須賀三浦支部は会員数が少なく支部としてまとまった活動はできませんが、横須賀市の会員を中心に下記のような活動に取り組んでいます。これからもこれらを継続して実施していくことと、未加入の環境カウンセラーに対するKECA加入の勧誘を行っていかうと考えています。

(1) 環境カウンセラー養成セミナー開催

三浦半島にはたくさんの環境保全活動団体が活発な活動を行っています。この中心になって活動されている人たちに「環境カウンセラー制度」を知ってもらい、行政、市民に信頼された環境活動に取り組んでいただくため、「環境カウンセラーの養成＝登録申請支援」を行っています。

三浦半島の中央にある湘南国際村の「協働参加型めぐりの森」において、森づくり・利活用が行われています。そのひとつに「三浦半島自然ふれあい楽校」があり、昨年7月28～31日にサマースクールを開催、その中で29日（日）に環境教育委員会の協力のもとに実施しました。

環境カウンセラーの仲間を増やすため、他支部においても実施されることが望まれます。

(2) 環境行政の支援

支部会員は6名ですが、2名が横須賀市環境審議会の委員に委嘱され活躍中です。

また、県道久里浜田浦線計画を担当する県横須賀土木事務所に対して、他団体と環境保全・配慮の建設的な意見・提言を行ったことで、県立観音崎公園再生計画検討会にもオブザーバーとして参画要請があり、ワークショップにも参加いたしました。

県道久里浜線の建設で、絶滅危惧種トウキョウサンショウウオの産卵地が消滅することから、遠田会員が卵塊採取、孵化・飼育し、成体になったものを環境が類似した近隣丘陵麓に放つ保護活動を行っています。県土木事務所でも同様な取組みを行っており、放流に連絡があり遠田会員が立ち合っています。

その他、「三浦半島まるごと博物館連絡会」「横須賀市自然環境団体交流会」に参加し、情報の共有、団体間の交流を図っています。

(3) 小学校の環境教育

「身近な水」「身近な川の生き物、いま、昔」などをテーマに小学校3～5年生の出前授業を行いました。何といっても遠田会員が持参した飼育中のトウキョウサンショウウオには子どもたちは目を輝かせて見入っています。実物を見てこの可愛い生き物が生きていける環境を守っていくことの大切さを理解してくれたことでしょう。

また川の上流に案内して、「水の汚れしらべ（パックテスト）」、「水の生き物しらべ」、川に入って「川遊び・源流探検」の体験・体感教育の指導しています。中には校長先生も参加されて大変好評なので、遣り甲斐を感じています。



トウキョウサンショウウオを見せる

これは横須賀市環境企画課の「横須賀市環境教育指導者派遣事業」として実施しているものです。

湘南支部

支部長 西村 堅一郎

湘南支部会員は現在13名です。毎月最終金曜日の午後6時30分から「藤沢市民活動推進センター」で定例的な会合を開催しています。理事会等の報告、環境フェアについて、支部各会員個人の環境活動および支部活動について意見を交換しています。

1. 本年度の活動において特筆すべきこと

- (1) 茅ヶ崎・藤沢の環境フェアに参加した。(詳細は別途報告をごらんください。)
- (2) 定例会で理事会・委員会の報告、EA21についての情報交換などを行った。
- (3) かながわ節電モデルプロジェクト・コンソーシアム事業に参加した。
- (4) 舟木さんが新しく入会された。

2. 来年度以降の活動について

- (1) 行政・市民・事業者との協働

KECA 会員も参加している環境市民会議「ちがさきエコワーク」という市民団体があります。KECA ニュース 47号で報告したような講演会の開催、環境フェアの開催など市民・企業の環境意識昂揚のための活動を行っています。また、2011年から始めた「かながわ節電モデルプロジェクト」も地球温暖化に取り組む団体の協働事業でした。これからは少ない人数で大きな効果をあげるために、協働事業でのリーダー的役割を果たしていきたいと思っています。

- (2) エコアクション21の普及

訪問、口コミなどを利用して、受審事業者を増やして行きたいと考えています。

また、これらの活動を行うためにも支部内部のコミュニケーションを充実させるとともに、新入会員の加入に取り組んでいきたいと思っています。

西湘南支部

支部長 小林 嘉博

(1) 支部例会

支部の定例会議を隔月に1回の割合で開くことを原則にしています。議題は、直近の理事会の様子の報告から初めて支部行事の進行状況の確認など定番のメニューなどを議論し、最後に次回会合の日程を設定することで終わりとしています。毎回の出席者の顔ぶれも支部所属会員の4～5割程度でほぼ一定しています。

例会の中では、理事会での議論で取り上げられている話題に関係して、支部会員の意見を聴きとるように

努めています。特定の懸案事項に関して議論をしますと、出席者の人数に相当する異なる意見が述べられる場合もあります。

なお例会が終わった後、特に都合の良い出席者を除いて、全員で正式な議題以外の情報交換を目的に懇親会を持つようにしています。記録には残しませんが無制限の発言による大切な情報の共有ができるのではないかと思います。

(2) 鉄道ファンの私ごと

自分の趣味の話で恐縮ですが、鉄道に乗って車窓風景を楽しむことが好きでJR青春18きっぷやJRジパング倶楽部の割引制度を利用して気ままに出かけています。昔から鉄道旅行を趣味にされている同好の士は多いようで、小説や紀行文も数多く発表されています。

昭和54年には、宮脇俊三さんが「最長片道切符の旅」を発表されています。以前に一度読んだことがありましたが、今回、復刻されて読みやすいものがありましたので再読しました。

読んでいる途中で、北海道の鉄道路線が現在では（この本の書かれた時期に比べて）大幅に消滅（廃線）してしまっていることに気づきました。

また、当時、北海道で多数の「急行」が走っていましたが、JRの時刻表を見るまでもなく、廃線になった部分が相当あり、現在では「急行」は、全てなくなって残ったものも「特急」に衣がえしています。

鉄道ファンにとっては寂しい限りの状況ですが、時代による環境の変化に合わせて改革が行われた結果であると思います。形を変えながら在来線区の運行が続けられていますし、本州から新幹線の延伸も遠からず実現するでしょう。

(3) おわりに

敢えて強弁するものでもありませんが、当支部の活動も状況の変化に合わせて息長く続けていきたいと考えています。KECA全体についての理事長方針を意識しながら、支部例会への出席者の増加を図り、魅力ある活動テーマの掘り起しや、他支部との協働も今後の重要な課題であると認識しています。

川崎支部

川崎支部長 照沼 俊夫

新年あけましておめでとうございます。「少し良いことがあるかなー」と言う兆しが見えてきましたので、みなさんも前を向いてお正月を迎えられたことでしょう。

さて川崎支部について過去を振り返りつつ、新年の支部を考えたいと思います。支部活動の歴史的取り纏めは、15周年記念誌にまとめましたので参照していただくとして、ここでは概観にとどめます。

川崎支部は12名でスタートし、その後退会1名、死亡1名、入会3名で、現在13名です。このうち市民部門の会員1名、市民&事業部門の会員3名、事業部門の会員9名です。また、この間、支部の会合に常時出席者5名（うち市民部門1名、両部門3名、事業部門1名）、1度は出席したことがある人5名（全員、事業者部門）です。ところが昨年になって常時出席者のうち、1名は病気が重くなった、1名は夜は避けたい、1名は時間が取れなくなった と言うことで、支部会合に参加するのは2名（いずれも両部門）のみになり、支部会合を開く意味がなくなりました。

そこで、2012年は、遠くまで夜中に出歩かなくても出来ること、すなわち身の回りの環境ウォッチング（生物暦の作成）を支部活動のテーマにしましたが、これにも参加しているのは4名（市民部門1名、両部門3名）に過ぎません。

もともと支部活動は市民部門的活動が中心で、事業部門的活動は向かないと思っていますので、事業者部門の会員が大勢を占める川崎支部では、この現象は無理からぬことかもしれません。また、NPO法人、特に支部活動は【持ちより】活動なので、会員が持ち寄るネタ、一人でもやり抜くというネタがないとそもそ

も活動になりません。従って、**持ち寄るネタ**が枯渇したら支部活動は老人クラブで充分であって、しゃかりきに、何かやろうとか、活発にとかは二の次で良いと思うのです。支部会合はお互いの【**健康な身体と健康な心を持ち寄って**】一杯やるだけで良いと思っています。

さて、2013年の川崎支部ですが、『生物多様性』の維持は、どこかの特定の地域のことをいうのではありません。空念仏では意味がありません。実践を伴わなければ意味がないのです。『生物多様性』の維持は、身近な環境こそが重要なので、川崎支部は今年も【**身の回りの環境ウォッチング（生物暦の作成）**】を続けましょう。絶滅しようとしている日本在来の【**籠甲蜻蛉**】と言う昆虫がいますが、これの天敵はアメリカザリガニです。アメリカザリガニが私たちの身近に放たれたのが100数十年前です。外来種による生態系の破壊が顕著になるのには100年かかるということです。「身近な環境の変化に注目しましょう。」これこそが生物多様性維持活動の極意です。「外来種を目にしたら捕獲し、日本の環境から隔離する運動を起こしましょう。」「外来種を野に放たない運動を起こしましょう。」そのための環境ウォッチングです。これからの支部会合はそういうことを肴にした【**一杯会合**】に形を変えましょう。

県央支部

支部長 古川 輝夫

1. 支部会員と定例会

本年度新しく会員になられた三島通世さん、品川高儀さんの2名を含めて総勢18名となり、KECAの各支部の会員数では横浜支部に次ぐ第2位の規模になりました。支部活動も地域密着型の環境活動の定着が図られると共に行政、学校、市民に対して環境カウンセラーの知名度も上がりつつあります。

定例会議は、えびな市民活動サポートセンターにおいて隔月の第3週日曜日に開催しています。支部会員の出席者は8～11名で、活発な情報提供や専門的な環境に関する勉強会などを行っています。

2. 主な支部活動

支部活動としては、環境教育の実施（サマースクール）、小学校への出前授業、綾瀬市環境展への出展、モデル施設見学会（リコー海老名事業所）では地域社会への貢献活動を多数の会員のご支援、ご協力により実施致しました。

- (1) 7月下旬には、海老名市内の3小学校へのサマースクールを実施しました（10ページ参照）。
- (2) 11月18日には、あやせ市環境展に出展し、環境カウンセラーの紹介、EA21の普及活動紹介のほか、エコゲームとして冷蔵庫の使い方、電気使用量の測定やペットボトルを使用した風力発電機の工作などを行ったことで参加者多数が集まり大いに盛り上がりました。また、環境経営研究会のBCP（事業継続計画）パンフレットの提示と普及も合わせて実施しました。
- (3) 12月6日、7日には、厚木市立緑ヶ丘小学校へ出前授業（テーマ：「ごみと3R」）を環境教育委員会の岡本副委員長の補助員として支部会員6名が参加し、環境教育の実践活動に協力致しました。

3. 今後の予定

1月には定例会議の後は新年会を予定しています。また3月には品川さん（森林インストラクター）による樹木勉強会を七沢自然公園周辺で計画しています。

以上の通り、県央支部では2012年度計画に基づいて順調に活動を推進しています。支部会員と本部、環境教育委員会のご支援、ご協力に感謝申し上げます。

相模原支部

相模原支部長 福田 昭三

昨年も計画通りの事業活動が出来ない1年でした。

新しい 2013 年度は相模原市の環境情報センターを中心として、原点に戻り市民、事業者、行政との協働にて、環境特に相模原市内の約 60%の森林地帯、この自然豊かな緑の骨格を形成する地域を里山としての共生を目標に下記の様な活動を計画しております。

1. 環境情報センターとの協働事業

- (1) 相模原市民桜まつりへの参加 (毎年 4 月第 1 土日曜日、市最大のイベント)
- (2) 相模原市民環境まつりへの参加 (6 月末の日曜日) (3) 小中学生中心の夏期・冬期学習会への参加

2. 地域企業との協働研修会

- (1) 地元中小企業研修会への参加
- (2) ボランティア作業の共同推進

3. 自然観察会への参加

- (1) 生物調査 (セミ、野鳥他)
- (2) 相模原市内の水環境 (相模川、境川他)
- (3) 相模原市内の里山 (旧津久井 4 町を中心に)

なお、今年度は 4 名のカウンセラーが加山相模原市長から相模原市環境審議会委員を委嘱されました。

- (1) 学識経験者として辻野さん
- (2) 公募委員として先崎さん、西田さん (3) KECA より福田

また、今年は相模原市民、とりわけ被災地から避難している方々との親睦と交流を考えております。



事業者に対する環境活動の報告

委員会、支部が取り組む事業者に対する環境活動について報告します。

環境経営研究会

研究会会長 古川 輝夫

1. 緊急事態対応の現状

現在、地震、風水害、新型インフルエンザ、山林火災、テロなど、予期できないような大災害発生が頻繁に地球規模で起こっています。

このような大災害がいざ企業に降りかかってきたとき、果たして企業は事業を継続することができるでしょうか。今までの防災計画では、このような大災害では対処することができません。

3.11 の東日本大震災では、企業活動の縮小や倒産に追い込まれた事例が沢山あります。不測の災害においても事業を継続させる重要性を政府、地方自治体、大会社が認識して事業継続計画 (Business Continuity Plan、以下 BCP と記す) を策定・運用に取組みつつある状況ですが、中小企業ではほとんど行われていないのが現状です。

2. KECA の取り組み

このような背景の基に、KECA では本年度から、環境保全の緊急事態の対応処置の一環として BCP を主体に取り組む「環境経営研究会」を立ち上げ、中小企業向け環境経営の支援のためのコンサルティングを行うことを目的に、リスク管理を経験した 14 名の専門家による事業活動を開始いたしました。

当研究会は神奈川県が制定した中小企業向け BCP 構築マニュアルを参考にして、独自の BCP 運用規定、業種別簡易版を策定し、ISO14001、EA21 の取得の中小企業をターゲットにパンフレットを作成しコンサル

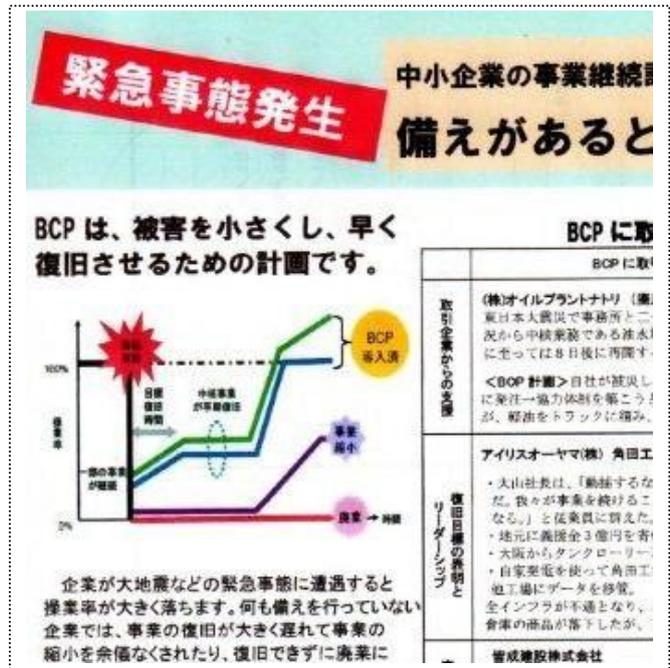
業務の展開を計画しています。

すでに当経営研究会の趣旨に賛同いただきました3社からご寄付をいただき、運営資金として本年度は運用しつつ、来年度以降の中期目標を策定して収益事業の展開を計画しています。

組織体制は、営業部門、事業部門、情報部門、事務部門の4部門を置き、それぞれ目標に向けて展開しています。

定例会は毎月第3日曜日に KECA 事務所で開催し、毎回全員が参加しています。来年度は、コンサル案件を各自一つでも受注することを共通認識に立ち事業展開していきます。

皆さんのご支援・ご協力をお願い致します。



BCPのパフレットのの一部

子ども・小学校の環境活動の報告

それぞれの地域で、地元の小中学校の環境教育出前授業や体験学習指導が行われています。神奈川県が主催する「新エネルギー・省エネルギー学校派遣事業」に環境教育委員会の授業企画提案が採用され、県内の小中学校で地元の支部会員の協力を得て出前授業を実施しています。また、横須賀三浦支部、県央支部では小学校出前授業、小中学生対象の体験学習などが活発に行われています。

1. 新エネルギー・省エネルギー学校派遣神奈川県委託事業

環境教育委員会副委員長 岡本正義

- 日時：2012年12月6日（木）、7日（金）午前、
- 厚木市立緑ヶ丘小学校5年生3クラス（計124名）
- テーマ：「ごみと3R～循環型社会を形成するために～」
- 指導者：岡本（KECA環境教育副委員長）、
- 補助者：県央支部（古川、高橋、守谷、品川、原、上野）

[授業内容]

- ・きれいな地球、海岸、川、魚、森の画像を見て自然の美しさを再確認する。
- ・ごみが増えて街が汚れる、生き物が困る、地球温暖化が進むことに気づく。
- ・厚木市の一人一日に出すごみの量を秤で実感する。
- ・リデュース、リユース、リサイクルの大切さ
- ・風呂敷包み体験（使った風呂敷はプレゼント）
- ・風呂敷の応用編として、三角巾、防災頭巾などを紹介

[最後のまとめ] 最後に授業のまとめ・振り返り、感想などを書いて発表してもらいました。なかには「これからはお買い物に風呂敷を持っていきます」と発表してくれた児童もいました。



講師の話を熱心に聞く子どもたち

2. 横須賀における子どもの環境教育

横三支部長 高橋弘二

(1) 横須賀市環境教育指導者派遣事業

KECA では遠田、高橋会員が指導者登録しており、学校からの要請で出前授業を行っています。昨年は5小学校・15クラスで実施しました。主な授業内容は次の通り。

- ①「身近な水」「平作川の生き物、いま・昔」：お話し
- ②「水の汚れしらべ（パックテスト）」：実習
- ③川の上流で「水質・水生生物調査」「源流探検」：体験学習

(2) すかっ子セミナー2012

「すかっ子セミナー」は、公立の学校が5日制で休みになった土曜日に市民団体が行う小中学生対象の体験学習プログラムです。分野ごとのコースをつくり、環境系では生活環境1コースと自然環境系4コースがあり、ほかに郷土史、国際理解、伝承文化のコースがあります。

担当しているのは、「自然系A・川がき探検隊」、「自然系D・海っ子・山っ子・もういっこ」の2コースで、5月から10月まで活動し、11月に合同発表会を行いました。毎月「すかっ子セミナー通信」を、最後に「記録集」を作成・配布しています。(2012年参加者30名)



みんなで水の透視度を測る

3. 「えびなっ子サマースクール」

県央支部長 古川輝夫

県央支部の活動として、海老名市内小学校へのサマースクール(子ども環境教室の部)を、下記のとおり実施しました。授業の狙いは、節電の知識を話して教えるのではなく、子どもたちが行動して、体感して、自分達で節電することの必要性を感じるような授業にしています(参加者小学校3~6年生)。

1. グループ討議1

「電気がないと使えなくなるもの」をグループ討議で整理する。

- ### 2. 演習①「電気をどのくらい使うのか測ってみよう」・テレビ・電灯セット ・ドライア・扇風機

演習②「家族団欒ゲーム」

演習③「冷蔵庫からの取り出しゲーム」

- ### 3. グループ討議2：「電気コツコツ作戦をつくろう」

- ### 4. グループ発表：各グループから自慢の作戦の報告および授業の感想の報告

5. グループ表彰

【子どもたちの感想】

- ①「家族みんな一つの部屋に集まる」と節電になるので、家に帰って家族に話してやります。
- ②冷蔵庫ゲームは楽しかった。グループ競争で1位になれなかったのが残念。
- ② ライヤーが一番電気を使うので、髪をよくふいてから使うようにします。

授業のテーマ	「電気コツコツ作戦」／グループ討議		
実施日	7月23日(月)	7月26日(木)	7月27日(金)
学校名	杉久保小学校	社家小学校	海老名小学校
参加者数	36名	34名	28名
会員協力者	7名	8名	7名



グループ討議に熱が入る子どもたち

市民協働事業活動の報告

環境保全活動は複数の主体（市民、市民団体、事業者、自治体など）が協力して行うことで、より効率的に効果的な成果が期待できます。KECAでは、委員会、支部をはじめ会員有志の参加・協力により、いろいろな市民協働事業に取り組んでいます。

「ちがさき環境フェア2012」に参加して

湘南支部 小山 稔

昨年6月23日（土）に「ちがさき環境フェア2012」が開催され、湘南支部は展示・ワークショップと省エネ・ミニレクチャー（西村氏）に参加しました。

ワークショップでは「どんな色になるか試してみよう！」をテーマに、来場の親子に日頃の暮らしの中で驚きや発見をしてもらう体験学習「キッチン実験室」を行いました。

- ①じゃがいもにうがい薬（イソジン）をつけると・・・?? ⇒ 紫になる。
- ②ぶどうジュースにレモン汁（酸）をかけると・・・?? ⇒ 赤くなる。
- ③ぶどうジュースにじゅうそう（アルカリ）を加えると・・・?? ⇒ 緑になる。

を体験してもらった。子ども達はお母さんにも手伝ってもらい、夢中でじゃがいもの皮をむき、おろし器ですりおろした汁にスポイトでイソジンを加え、ぶどうジュースにレモン汁やじゅうそうを加えて色が変わるのを楽しんでいた。

実験が終わった後で、①はよう素・でんぷん反応ということ、②③はぶどうの紫色や多くの果物や野菜の色がアントシアニンという色素であり、酸性とアルカリ性で色が異なることを説明し、少しでも理科に興味をもってもらえればいいかなと思った一日でした。



写真 キッチン実験室（嶋田、西村、安斉、小山）

びんリユース活動の調査結果報告

びんリユース活動チーム（横浜支部） 斎藤雅彦／河野健三

昨年暮れの12月21日（金）午前、日野市教育委員会教育部学校課を訪ね、学校給食の牛乳びん使用の実態についてお話を伺ってきましたのでご報告いたします。

1. 経緯

平成16年、東京都の学校給食会で紙パックに変更することに決まったが、日野市では牛乳びんの方が環境に良いのではないかと声が上がリ、平成17年度は間に合わず紙パックの牛乳を飲むことになった。いろいろ調査したところ、高梨乳業でびん牛乳の生産、配達から回収までやってもらえることが分かり、18年度より再び牛乳びんで給食が実施された。

2. 牛乳びん使用実態

牛乳びんの場合、洗浄や乾燥する時間、配送～回収など学校で実験し、宅配ラインを持っていた高梨乳業

に依頼、学校でプラスチックの蓋を洗い、びんはP箱(20本入)に入れて高梨乳業へ返している。

- ・日野市の小学校：17校、中学校：8校、計25校(全校)で実施、数量約14,000本/日
- ・びんリユース回数は30回、・配送ルートは3コースある。
- ・「日野市教育委員会—高梨乳業」で契約書を交わしている。



3. 感想・今後の進め方など

- (1) CO₂の削減効果など数値的な検討はしていないようである。
- (2) びんは中味が見えるので飲み残すと分かるので良いとのこと。
- (3) 神奈川県・横浜市の場合、紙パックは洗浄して返却しているのか? ごみとして焼却しているのか?
先ずは神奈川県の教育委員会(学校給食会)を訪問して見解を聞く必要があると考える。

ヨコハマ環境行動フェスタ2012 出展報告

横浜支部 大野 昌美

□日時：2012年11月3日(土・祝) 11:00~16:00

□場所：クイーンズパーク 横浜市西区みなとみらい2 屋外、参加者4500名(主催者発表)

□KECA出展：サンゴ礁の生きもの・廃棄物利用工作の展示、・LED電球と蛍光灯、白熱灯との電力比較

□担当者：横浜支部：大竹、大野、河野、竹内、原、水野(50音順) 湘南支部：嶋田

横浜市では、10月と11月の2ヶ月間、“YOKOHAMA bフェスティバル2012”と銘打って、生物多様性についてのPR運動を行った。bフェスティバルの“b”とはbiodiversity(生物多様性)を意味し、生きものはみんな繋がっているので全生態系を護ろうという運動だ。

横浜市環境創造局が募集した“ヨコハマ環境行動フェスタ2012”(bフェスタのイベントの一つ)に、かながわ環境カウンセラー協議会(KECA)として応募した。

横浜市温暖化対策総括本部、建築局、環境科学研究所をはじめ、横浜市資源リサイクル事業協同組合、ユーコープ事業連合、トンボはどこまで飛ぶかフォーラムなど13の民間団体が参加し、出展した。

KECAの主な展示物は、湘南支部の嶋田和夫氏が長年収集されたサンゴ礁の珊瑚、ほら貝などの珍しいもので、多くの見学者があった。特に横浜市民放送局が長時間にわたって取材していた。

ほかに、省エネルギー活動のLED、蛍光灯、白熱電球の消費電力量の比較実験や、こども集めの「蝉しぐれ」(カップ麺の空き容器利用の蝉声発生器)、「ヘロンの噴水装置」(ペットボトル利用の無動力噴水)などの面白い展示や実演も人気があった。

当日、木村信幸理事長も展示場に来られた。当日の天候は午前が曇りで肌寒く、用意された展示用の黄色いジャンパーが防寒具としても役立った。しかし太陽熱炊事装置や太陽光発電玩具を展示していたグループには良い見せ場がなく、気の毒であった。

人集めとしてのイベント、クイズラリー(アンケート)で回答者に景品としてLED電球を配っていたが、用意した電球200個が完配とのことであった。

午後は晴れてきたが秋の日は釣瓶落とし、16時早々に、屋外展示グループのほとんどが引き上げていた。



写真1 来場者に説明する嶋田さん



写真2 よこはま環境行動フェスタ会場



写真3 展示説明にあたったみなさん

協働参加型めぐりの森づくり・利活用

横須賀三浦支部 高橋 弘二

三浦半島の中央・葉山町と横須賀市にまたがる湘南国際村は研修所、研究機関などと住宅からなる緑陰滞在型の街として神奈川県的主导のもとに開発が進められてきました。湘南国際村センターを中心とする研究施設、住宅街（A地区）はほぼ予定通りに完成しましたが、緑の中にゆったりとした研究施設が建設される予定であったBC地区は全く建設の目途がたらず、造成を終えたまま20年が過ぎました。

2006年、デベロッパーは計画を断念し、BC地区（写真）を緑地としての保存・再生/利活用を条件として神奈川県に無償譲渡しました。現在、有識者による検討会が出した基本方針に基づき、「前田川源流域・子安緑地は保全する」、一方、県と地元団体による「コア事業（4）」と「一般公募事業（3）」の2本立てで、利活用推進会議のもとに「森づくり・利活用」が行われています。

全国植樹祭を受けて、横浜国大名誉教授宮脇昭先生の指導で「混植密植式植樹」が年2回行われていますが、私たち横須賀・葉山の環境団体で立ち上げた「三浦半島自然ふれあい楽校」は、自然を活かした植樹と萱場の再生・利用を行う一方、地元子どもたちの環境教育・自然体験の場として活動しています。



湘南国際村めぐりの森・大楠山

KECAの活動報告

1. 総合研修会 I

KECAの将来像に焦点を当てたパネルディスカッション

事務局 事務局長 河野健三 / 担当 植村 国男

2012年度の総合研修会 I は、2013年が KECA 設立 15周年を迎えるに当たり、「KECA の将来像を探る」と題して、昨年10月13日、波止場会館においてパネルディスカッションを行いました。

コーディネーターを杉浦理事（前理事長）にお願いし、パネリストとして木村理事長、小林副理事長（委員会担当）、高橋副理事長（支部担当）、照沼環境管理委員長、河野事務局長が説明を行い、フロアに理事、一般会員16名、合計24名が出席しました。

冒頭、木村理事長から、環境カウンセラーとしての原点に立ち返って、KECA 将来像の検討が必要との基

調講演があり、1. 環境経営支援の推進、2. 環境教育の推進、3. 行政・関係団体との協働、4. 会員の増強等について基本方針が述べられました。

その後、各パネラーからそれぞれ担当部門の現状と将来像について説明があり、意見交換を行いました。討論では KECA の問題点が浮き彫りにされ、要約すれば KECA 財政の健全化と委員会・支部・事務局の再構築、会員の増強が必要との結論でした。詳細は 4 月に発行予定の 15 年記念誌に記載されます。



写真1 会場の参加者



写真2 木村理事長の基調講演

2. 総合研修会Ⅱ

交流・懇親を目的とした宿泊研修旅行

事務局 植村 国男

総合研修会Ⅱは、2012年11月10日～11日、伊豆熱川シーサイドホテルにて開催されました。多忙な時期と重なったためか参加者は少なく（5名：木村信幸、樋口藤太郎、大竹順之、植村国男、河野健三、敬称略）、ホテルに到着後の研修では「遺伝子組み換え技術」と「生物多様性」の講演の後、総合研修会Ⅰの討議の結果を受けて「KECA 将来像について」活発な話し合いが行われました。

樋口さんから遺伝子組み換え技術について、大竹さんから生物多様性関連としてカナダ・オンタリオ州アルゴンキン州立公園見学ツアー参加の体験談を含め“森林破壊と再生”についてお話を伺い意見交換しました。ご両人ともそれぞれの分野で造詣が深く、興味深いお話をうかがうことが出来ました。

また、総合研修会Ⅰにおける討論の結果を受けた「KECA の将来像について」意見交換した結果、

■KECA の問題点（財政基盤及び支部・委員会のあり方）

の検討を進めるに当たっては、まず KECA が何をやるようとしているかを示した基本方針、分かり易いキャッチフレーズを掲げ、中長期目標を設定することが必要であろうとの結論であった。



参加者（ホテルの庭で）



討論を終えてひと休み

バリアフリーフェア2012へ参加

事務局長 河野 健三

バリアフリーフェアは、9月15日(土)、16日(日)、KECA 事務所がある横浜ワールドポーターズ (YWP) で開催された。YWP におけるビッグイベントで、KECA は YWP に事務所を構えた 2007 年から NPO スクエアの一員としてフェアの実行員会に参加し、ブースをもらい活動紹介パネルなど出展している。

横浜ワールドポーターズは「ハートビル法」の基準を満たした障害者・高齢者にもやさしいバリアフリーなショッピングセンターで、バリアフリーフェアは身体の違い、年齢・国籍・性別の違い(バリア)を取り払って、みんなで楽しもうとの趣旨で毎年開催されている。

今年の KECA は「生物多様性の保全」と「五感」をテーマに、身近な自然とのふれあいの大切さ、日常、何気なく使っている「びん」にもいろいろな工夫があること等を伝える内容として、パネル展示と DVD の映写を行った。

対外的な KECA の PR と普段会えない会員が顔を見せ会員同志の交流もでき有意義であった。

また、一昨年 8 月の東日本被災地・福島訪問の際にお世話になった福島環境カウンセラー協会の長澤会長 (ECU 副理事長) が来場され、木村理事長をはじめ関係者とも交流することが出来た。



写真1 KECA の展示会場風景



写真2 福島環境カウンセラー協会
長澤会長を囲んで

平成24年度環境カウンセラー研修

環境教育委員長 高橋 弘二

毎年、環境省関東地方環境事務所が主催し開催している環境カウンセラー研修が、11月26日(月)、27日(火)、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。企画・運営を環境カウンセラー全国連合会 (ECU: 鈴木富雄理事長) が行うことになり、総合プロデューサーを ECU 今泉奉副理事長 (KECA 前監事) が担当されました。

第1日目、2日目とも同じ内容の講演・講義が行われます。

- (1) 総論: 環境行政の最新の動きについて 関東地方環境事務所環境対策課長 城間 盛孝氏
- (2) 基調講演: エコエネルギー政策と地球温暖化政策の再検討 NPO 法人国際環境経済研究所 澤 昭裕氏
- (3) 研修

- ① 専門研修1: 循環型社会形成推進と環境カウンセラーの活動 (コーディネーター: ECU 環境教育委員西原氏)
- ② 専門研修2: 環境教育推進法と環境カウンセラーの活動 (コーディネーター: ECU 理事上領園子氏)

③専門研修3:生物多様性と環境カウンセラーの活動 (コーディネーター: ECU 常務理事佐々木進市氏)

④新規研修: 環境カウンセラーが実施すべき初期環境行動

- ・コーディネーター: ECU 理事 (KECA 理事長) 木村信幸氏
- ・講師: 「事例報告 (1) 市民活動」 KECA 副理事長/環境教育委員長高橋弘二氏
「事例報告 (2) 事業者に対する環境活動」 武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会理事泉浩二氏
「事例報告 (3) 子どもたちの環境教育」 栃木県環境カウンセラー協会伊藤延子氏

KECA 会員の新規研修受講者はいませんでした、専門研修には20名近い会員の顔が見えていました (2日間)。

新規研修では3講師の事例報告に先立ちコーディネーター木村 KECA 理事長が、環境カウンセラーとしての自覚、再確認の講義の後、参加者2人1組で「環境カウンセラーと質問者」の模擬体験、テーマは①外来種の駆除は動物愛護に反するのでは?②廃プラのリサイクルはお金とエネルギー消費を考えると本当にいいのか?参加者は熱心に話し合っていました。時間がなくて結果について発表は1人ずつしかできませんでしたが、参加者全員が参加・議論できたことで、とても有意義であったと感じました。



新規研修分科会での木村理事長の講演

会員のページ

川崎から里山便り 2

川崎支部 照沼 俊夫

2000年に僅かに残った里山を、往時の景観に戻そうと始めた里山維持保全活動である。この活動に遡ること5~6年前の夏の朝は、5時頃に鳥の声で目を覚ましていたが、年々、およそ30分の単位で鳥の鳴き出しが遅くなったのである。終いには7時頃になって漸く鳥の声を聞くようになった。何かが起こっているに違いないと思い、周辺を見て歩いたのである。

そこで目にしたのは、笹竹 (東根笹) が生い茂り、葛が覆いかぶさった森や緑地の光景だった。

ここの公園は住宅地開発の時に、一部の里山 (谷戸地と森) をそのままの形で残した公園があった。公園といっても、ごく一部 (150m²程度) に遊具を置いてだけで、大部分は柵がしてあって、市民が自由に出入りできないようになっていた。放置された里山で36,000m²の広さがあった。

この状態を見て、すくすくと引き下がる訳にはいかなかった。この花が咲けない、蝶が来ない、虫がいない、鳥が来ない、鳥が鳴かない、この状態を変えようと思い、単身で【俺がやる】と市の職員と掛け合った。既に別の公園で、私が委員長になり地域住民や市と協力して、公園を維持管理する仕組みを構築するという実践を通し、職員とは顔見知りになっていたのも、渋々ながらオーケーが出た。一人でやっているうちに、一人、二人と仲間が増えて、活動が形になっ



写真1 東根笹の藪を再生作業中

た。写真の部位については4年後に見られるように見事に再生できた。しかし、1年でも放置したら元に戻ってしまう。継続して手を入れ続けなければ意味がない。



写真2 手入れ前の荒廃していた森

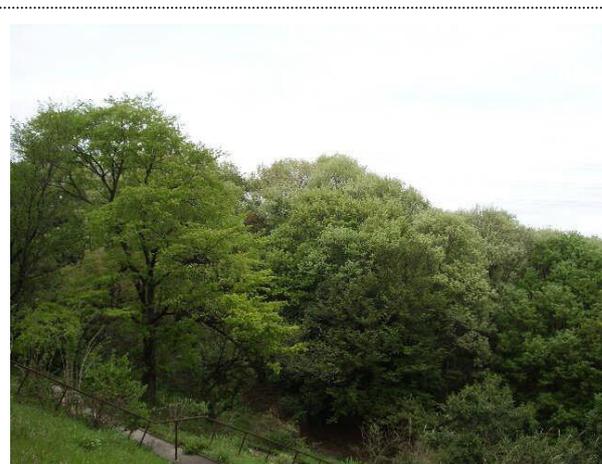


写真3 4年後の再生された森

事務局だより

事務局長 河野健三

1. KECA ニュースの発行が遅くなり申し訳ありません。

KECA ニュース第48号は昨年8月にお届けする予定でしたが、KECA 設立15年誌の原稿作成時期と重なり、KECA の広報活動において KECA ニュースの発行目的の明確化等の課題が浮き彫りになってきたこともあり、2013年の新年号として発行することになりました。

発行の目的については理事会などで検討の結果、KECA ニュースは、主目的は会員向けの情報提供誌と位置づけられたので、体裁・ボリューム等も含め新しい構成でお届けします（編集担当も前任者退任により交代しました）。会員の皆様の忌憚のないご意見をお聞かせ頂きたく宜しくお願いします。

2. EA21 認証・登録制度について（現在の EA21 認証・登録制度のかたちは当初、KECA による「審査認定証」の交付から始まったことが分かりました）

この度、15年記念誌の編集に携わり、先輩諸氏が記述された KECA 設立当初の取組みを拝読し、EA21 認証・登録証のオリジナルは KECA が交付した「審査認定証」にあることが分かりました。

2006年以降の KECA のコンサル契約企業は200件を超え、全国の認証・登録件数も7500件を超えるまでになっております。この活動の源泉が KECA 諸先輩の活動のご努力によるものであることが分かり、現在まで脈々と受け継がれていることに感銘を受けました。

現在、横浜ワールドポーターズに事務所を構え、維持することが出来ているのも、諸先輩の努力と現在 EA21 のコンサルと審査を担当して頂いている審査人の皆様のご尽力・協力の賜物と感謝する次第です。

3. KECA の広報活動について

KECA の広報活動は、KECA ニュースの発行、ホームページへの掲載、リーフレットの活用という3本柱で進めております。

リーフレットについては昨年5月に発行し、各支部によるそれぞれの地元自治体への配布や、環境展、各種イベントなどで配布した結果、最初に印刷した1,000部は全てなくなり、昨年11月にあらためて1,000部を追加印刷しております。事務所で保管しており、会員どなたでも必要部数等連絡くださればお送りいた

しますので、KECAの活動紹介としてご活用をお願いします。

また、ホームページについては検討会を設置し、日常の更新に加え、今後の進め方を含め検討しています。なお、ブログについては昨年9月から運用を開始しております。

会員動向

事務局（会員担当） 山田 徹郎

2012年12月末時点の会員総数は121名で、会員構成は下表に示す通りです。

ここ一年半位の間で、新規に16名が入会されたが、一方高齢化にともない活動が思うようにできないことや死亡等の理由により、残念ながら会員総数としては7名減となっています。

（財）日本環境協会 環境カウンセラー全国事務局の発表によれば、神奈川県に環境カウンセラー登録者は418名（本年10月）在住されています。それに対し現時点でKECAに入会されているのは約1/4（下表の110名）となっています。

KECAの環境保全に関する諸活動を、これらKECA未加入の方や環境カウンセラー登録とは無関係に環境保全諸活動を、精一杯やってみたいという方々に浸透するように努力すれば、もっと多くの方々に入会頂けることになると信じ、頑張りたいと考えています。

環境カウンセラー（EC） 登録部門	A 事業者部門	B 市民部門	C 両部門	合計	環境カウンセラー 登録希望会 員	総会員数
2012年12月末時点 会員数（名）	88	16	6	110	11	121

【新入会員募集】

常時募集しておりますので、新規入会ご希望の方はKECAのホームページ掲載の「入会案内」を参照の上、入会申込書（KECA事務所より取り寄せるなどして）を提出ください。

新人会員紹介

2012年4月以降、新規入会されました10名のうち、4名の方から簡単な自己紹介文を頂きましたので、以下にご紹介いたします。

1. 品川 高儀（しながわ たかよし）

- ・所属：県央支部（厚木市）
- ・部門：事業者部門
- ・専門分野：環境化学、地球化学

2006年から全国森林インストラクター神奈川会で活動していますが、環境のことも話題にできるように資格を取りました。森林や昆虫の解説をするだけでなく、歴史や文化も視野にいれて活動したいと思います。よろしく。

2. 下里 與（しもざと あとう）

- ・所属：横浜支部（横浜市栄区）
- ・部門：EC希望
- ・専門分野：環境監理、核エネルギー

民間企業で原子力機器の設計とプロジェクト纏めを約40年担当してきました。その後、環境／品質ISOの審査員を務め、今年度からKECAに入会させていただきました。個性豊かな先輩方とお知合いになれ一緒に活動し社会に貢献できることが喜びです。よろしくをお願いします。

3. 古屋 伸夫 (ふるや のぶお)
 ・所属：相模原支部 (相模原市南区)
 ・部門：EC 希望
 ・専門分野：環境管理、化学物質

約 40 年間、電気機器製造メーカーに勤務しておりましたが、現在は製造加工会社に勤務し、製造業務と製品含有化学物質管理を行っております。実務経験を生かして、中小企業様をご支援させていただければと思っています。

4. 水野 房夫 (みずの ふさお)
 ・所属：横浜支部 (横浜市南区)
 ・部門：事業者部門
 ・専門分野：水質、廃棄物、土壌

性格は風貌と違い厳しいけど思いやりがあります。人を教育したり意思を伝えたりするのは難しく、歳を重ねるにつれて考えさせられる。KECA には優秀な諸先輩が多いのでこれから学びたいと思います。

5. 舟木 賢徳 (ふなき けんたく)
 ・所属：湘南支部 (鎌倉市)
 ・部門：市民部門
 ・専門分野：水質、廃棄物、リサイクル
 森林保護

8. 杉山 正明 (すぎやま まさあき)
 ・所属：相模原支部 (相模原市南区)
 ・部門：市民部門
 ・専門分野：自然観察、森林保護、
 地球環境問題

6. 林 利夫 (はやし としお)
 ・所属：横浜支部 (横浜市緑区)
 ・部門：事業者部門
 ・専門分野：環境監査・マネジメント
 土壌・地下水、地球環境

9. 千葉 雅子 (ちば まさこ)
 ・所属：横浜支部 (横浜市旭区)
 ・部門：事業者部門
 ・専門分野：水質、環境監査・マネジメント
 化学物質

7. 真砂 文夫 (まさご ふみお)
 ・所属：横浜支部 (横浜市港北区)
 ・部門：EC 希望
 ・専門分野：環境監査・マネジメント
 環境教育

10. 三島 道世 (みしま みちよ)
 ・所属：県央支部 (海老名市)
 ・部門：事業者部門
 ・専門分野：環境監査・マネジメント
 環境教育、廃棄物

【行事案内】 詳細は別途、お知らせいたしますが予定表に入れておいてください。

- 3月2日(土) 午後、「第19回市民環境活動報告会」、県サポートセンター2階県民ホール
 基調講演／口頭発表 (KECA 発表) / テーブルセッション (詳細は開催案内参照)
- 3月9日(土)、10日(日)「市民活動フェア」、県民活動サポートセンター
 KECA 展示ブース、BCP セミナー開催予定
- 5月18日(土)、「第17回 KECA 通常総会」、波止場会館

[発行] 特定非営利活動法人 かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)

理事長：木村 信幸、／事務局長 (広報担当)：河野 健三

住所：〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1

横浜ワールドポーターズ6階 NPOスクエア内

電話：045-226-5822 FAX：045-226-5825

E-メール：37keca@kke.biglobe.ne.jp

URL：<http://www1a.biglobe.ne.jp/hama37keca/>

[年会費等振込先] ゆうちょ銀行 口座番号 00260-9-24711

